

# 化石への関心を高めて

獅子島の化石を指江庁舎で展示

↓指江庁舎に展示されたアンモナイトの印象化石



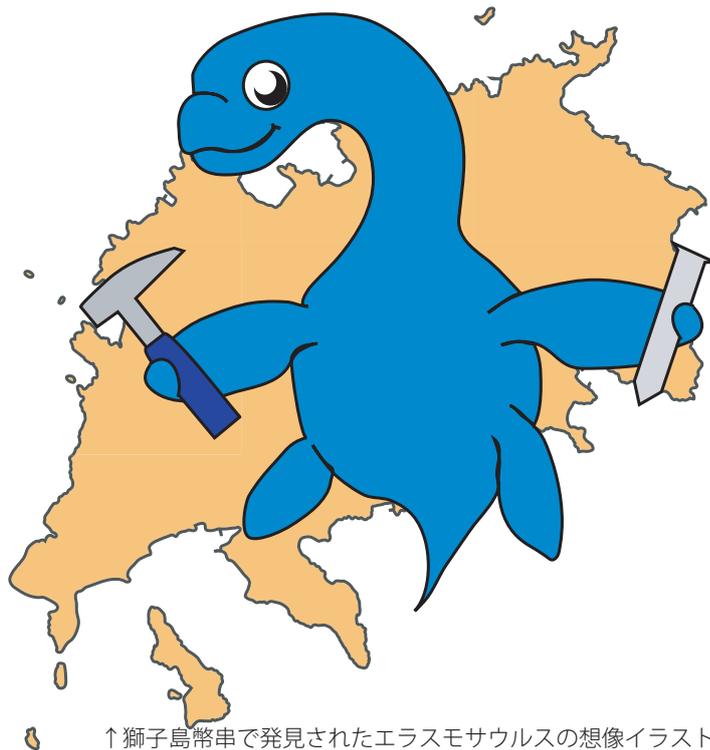
## ●獅子島で発見の化石を公開

長島町教育委員会は化石への関心を高めてほしいと役場指江庁舎の一階ロビーで、獅子島で発見されたアンモナイトや二枚貝などの化石を公開しました。

展示されたのは、アンモナイトの化石の跡が岩石に残った印象化石とグレイソニテス（アンモナイト）の化石、イノセラムス（二枚貝）の印象化石の3点。大きいものは直径42・8センチもありました。

八代海に浮かぶ「獅子島」は、アンモナイトや二枚貝、巻貝などの化石が多く発掘される『化石の島』として全国に知られています。

獅子島で見られる地層は、映画「ジュラシックパーク」でおなじみのジュラ紀



↑獅子島幣串で発見されたエラスモサウルスの想像イラスト

より後期の、中生代白亜紀（9800万年前）のものとして推定され、御所浦層群と呼ばれる地層が大半を占めています。

## ●学術的にも貴重

平成16年2月には、獅子島幣串の海岸で海生は虫類「クビナガリュウ」の化石が見つかっており、この化石の調査を進めた結果、クビナガリュウのエラスモサウルス科と確認されています。

このことは、9月に四国で行われる日本地質学会で、鹿児島大学の仲谷英夫教授が概要を発表される予定になっています。

この発見は、学術的にも貴重で、化石発掘関係者から注目されています。